

地域支援セミナー

テーマ

存在にこそ価値がある!一人ひとりが尊い命

—障がいのある人が当たり前地域に暮らし、地域の一員として共に生きる社会の実現に向けて—

現在わが国は、全ての人たちが、その人らしく幸せな人生を送ることができる社会=共生社会を目指しており、厚生労働省は、2020年代初頭には「『我が事・丸ごと』地域共生社会」の実現に向けた体制づくりを全面展開するとして改革を推進しています。障がい福祉分野においても、その人の望む地域での暮らしが可能になるよう法整備や制度改正が進められ、障がい福祉を取り巻く状況は一昔前と比べて大きく前進しているといえるでしょう。

しかし、つい2年ほど前に津久井やまゆり園の痛ましい事件が起きたことも事実です。事件は今も障がいのある人や関係者の心を痛め続けていますが、信じ難いことに、犯人の障がい者に対する差別や偏見に満ちた歪んだ思想に共感する人達がいることも否定できません。人間の価値は他人が決めるものではなく、その人が如何に生きるのかです。お互いがそれぞれの価値を認め、譲り合って共存を図っていくことこそが、真の共生社会の実現につながるのではないのでしょうか。

今回は、障がい福祉の原点に立ち返り、障がいがあろうとなかろうと、一人ひとりが尊い命であることをあらためて実感し、真の共生社会を築いていくにはどうすればよいかをみんなで考えることができるセミナーにしたいと考えました。

1日目は、行政説明のほか、ご自身に障がいがありながら障がい者を雇用するための会社を立ち上げた佐藤仙務氏を講師に迎え、弱者を支えあう社会を構築する取組を伺うとともに、徹底討論で議論します。

2日目は、3つの分科会を通じ、どんなに障がいが高くとも『地域で生きる』ことを当たり前のこととして支援することの意味を考え、また、『我が事・丸ごと』地域共生社会の実現に向けたツールのひとつとしての「地域生活支援拠点」からみた地域を基盤とした包括的な支援の在り方を模索し、さらに、ワークショップで日々の仕事の“?”についてたくさんの参加者と日ごろの思いをディスカッションすることで、見識を深め、希望に満ちた明日の明るい支援へ繋ぎたいと考えています。

本セミナーへの多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開催日	平成30年11月5日(月)～6日(火)
会場	ホテルグリーンタワー幕張 (千葉県千葉市美浜区ひび野2-10-3)
主催	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 地域支援部会
対象	障がい児・者の地域支援に携わる関係機関職員等
定員	350名
参加費	セミナー: 会員 11,000円 / 一般 13,000円 交流会:7,000円(任意参加)

日程

第1日目 11月5日(月) / 全体会

12:30	13:00	13:10	14:10	15:30	15:45	17:30	18:00	19:30
受付	開会式	行政説明	講演	休憩	徹底討論	移動	交流会	

第2日目 11月6日(火) / 分科会

9:00 12:00

第1分科会: 存在にこそ価値がある!重い障がいのある方たちの支援

第2分科会: 地域生活支援拠点を役立てて創る!地域共生社会の実現

第3分科会: 《ワークショップ》障がい者の地域生活を支えるのは働きがいのある人間らしい仕事!?

(※諸事情により、プログラム・登壇者を変更する場合があります)

I 開会式(13:00~13:10)

II 行政説明(13:10~14:10)

障害保健福祉施策の動向

富原 博氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活支援推進室 室長補佐)

III 講演(14:10~15:30)

弱者を支え合う社会? 弱者を生み出さない社会?

佐藤 仙務氏(株式会社仙拓 代表取締役社長)

講師紹介

1992年に脊髄性筋萎縮症の診断を受ける。2010年愛知県立港養護学校商業科を卒業。ほぼ寝たきりという生活を送りながら、2011年に19歳でホームページや名刺の作成を請け負う合同会社「仙拓」(2013年に株式会社に改組)を、同じく重度の障がいを持つ幼馴染とともに立ち上げた。「働く場所がないのであれば、自分たちで会社を作ろう」という理由で起業したという。株式会社仙拓では代表取締役社長。

パソコンを介して、両手でのマウス操作と会話や表情により業務をおこなっている。障害支援区分は最重度の6。経営する「仙拓」は、一般社団法人日本経営士会のビジネス・イノベーション・アワード2013において「会長特別賞」を受賞した。2013年にインターネットで知り合った筋ジストロフィーの重度障がい者を、2014年より「社員」として「仙拓」で雇用している。雇用者の数は2018年現在8人となっている。

2016年11月、地元である東海市が「ふるさと大使」を委嘱。2018年現在は、椋山女学園大学や愛知県立港特別支援学校の講師を務める。

著書・関連本

『働く、ということ 一十九歳で社長になった重度障がい者の物語―』

彩図社、2012年(ISBN 978-4-88392-893-4)

『寝たきりだけど社長やります 一十九歳で社長になった重度障がい者の物語―』

彩図社、2014年(ISBN 978-4801300033)

『寝たきり社長 佐藤仙務の挑戦』

致知出版社、2018年(ISBN 978-4800911766)

IV 徹底討論(15:45~17:30)

地域でともに支え合い、ともに生きるために
～わたしたちの目指す真の「共生社会」とは～

今回の報酬改定で積み残された課題として挙げられた13項目の中には、居宅介護や重度包括支援、グループホームにおける個人単位でのホームヘルプの利用といった障がいの重い方が地域生活を継続する上での課題等も多くあげられています。わたしたちが目指す、真の共生社会の実現に向けて、地域生活を継続するための効果的な制度の活用や、運用上の課題等を含め、徹底的に討論したいと思います。

論者

河原 雄一氏(神奈川県:湘南ゆうき村/日本知的障害者福祉協会政策委員会委員長)

光増 昌久氏(北海道:松泉学院/障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会代表)

村上 和子氏(大分県:ファンタジア/日中活動支援部会副部会長)

進行

山崎 千恵美氏(北海道:いどむ/地域支援部会部会長)

V 交流会(任意参加)(18:00~)

第1
分科会存在にこそ価値がある!
重い障がいのある方たちの支援

どんなに重い障がいがあろうと、「地域で生きる」ことを当たり前のこととして実現させていくために支援はあります。「人として関わることで存在感が現れていく。そのことにこそ価値がある」と私たちは捉えてきました。「生産性がない」として線を引くような社会の風潮に危機感をもちつつ、いま一度、日々の現場で丁寧に本人と向き合い、思いをしっかりと聴きとっていくことの大切さを学びます。

講演 9:00~10:30

『普通に生きる』小沢 映子氏(静岡県富士市議会議員)

講師紹介

重度障がいがある娘・元美さんの母として、親の会活動から社会福祉法人「インクルふじ」を設立(現在、生活介護事業「でら〜と」他を運営)。その活動は、2011年に完成したドキュメンタリー映画「普通に生きる」で広く全国に紹介され、思いを同じくする多くの親たちの励みとなっている。

実践発表 10:40~12:00

『愛知県の本人部会活動での戸惑いと成長そして交流の実践報告
~学び合うことの可能性と拡がり~』

発表者 稲生 直幸氏(愛知県:あったか生活支援センター)

『ウェルカムドリンクからはじまる、グループホームでの生活』

発表者 池田 紘一氏(京都府:ベテスダの家)

進行 山西 孝氏(山梨県:サポートセンターハロハロ二番館/地域支援部会委員)

第2
分科会地域生活支援拠点を役立てて創る!
地域共生社会の実現

平成30年4月に行われた改正障害者総合支援法の施行や障害福祉サービス等報酬改定は、「地域共生社会」の実現に向けて、障害福祉制度を含む日本の社会保障制度を根幹から変革する一部分でした。

日中サービス支援型グループホーム、自立生活援助や共生型サービス等の新たなサービスが創設されましたが、そのサービス内容を一つひとつ細かく検証していくと、「地域生活支援拠点」を核とした、地域共生社会における諸課題を包括的に解決する機能の中のセグメントであることが見えてきます。

名称だけが先行している感のある「地域生活支援拠点」について、障害福祉サービスごとの関わりや基幹相談支援センターを含めた地域を基盤とした包括的支援のあり方について意見を交わし、見識を深めたいと思います。

講演 9:00~10:30

『我が事・丸ごと『地域共生社会』の実現に向けて』

照井 直樹氏(内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部 参事官補佐)

シンポジウム 10:40~12:00

シンポジスト

堀田 直輝氏(JOCA(青年海外協力協会) 事務局長)
富岡 貴生氏(神奈川県:相談センターゆいま〜る/相談支援部会副会長)
石本 伸也氏(香川県:もえぎの里支援センター/地域支援部会委員)

助言者

照井 直樹氏(内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部 参事官補佐)

進行

最上 太一郎氏(熊本県:在宅支援センターへるぷねっと/地域支援部会委員)

第3
分科会

ワークショップ研修

障がい者の地域生活を支えるのは
働きがいのある人間らしい仕事!?

この分科会はワークショップ形式で行います。ワークショップ形式の研修は、一方的に話を聴くスクール形式と違い、参加者自身が考え、発見や気づきを自ら得られることが最大の特長です。人から言われたことより自分で気づいたことのほうが後々の自らの行動に影響を与えるため、積極的な参加がより大きな効果を生み出します。さらに、参加者同士がディスカッションすることで、相互理解が深まるのもワークショップのメリットです。

今回は、わたしたちが日々の仕事の中で不意に感じることもある本質的な“?”をテーマとしました。全国から集まった参加者が、ともに日常から離れた解放感の中で自由に語りあい学びを得ることは、今後の支援の現場に活かせる貴重な体験となるため、ぜひ積極的に参加しましょう!

オリエンテーション

『ワークショップに参加するにあたって』

講師 末田 友子氏 (愛知県：ゆたか通勤寮／地域支援部会委員)

ワークショップ

『障がい者の地域生活を支えるのは働きがいのある人間らしい仕事!?』

ファシリテーター 末田 友子氏 (愛知県：ゆたか通勤寮／地域支援部会委員)
渡部 等氏 (愛知県：愛光園地域居住サポートセンター／地域支援部会副会長)
他

※諸事情によりプログラム・登壇者を変更する場合があります。

アクセス

研修会会場

ホテルグリーントワー幕張

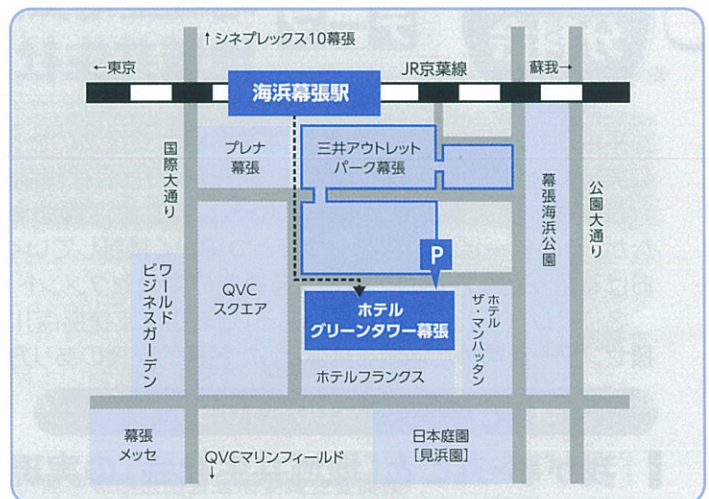
〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野2-10-3

電車でのアクセス

- 「海浜幕張駅」南口より徒歩3分
- JR「東京駅」より快速で約35分
- JR京葉線「舞浜駅」より快速で約20分

羽田空港からのアクセス

リムジンバスで約60分
(千葉中央駅行「ホテルグリーントワー幕張」下車)



大会内容に関するお問い合わせ(大会事務局)

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 事務局 (担当/山本・三浦)

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-19 KDX浜松町ビル6階

TEL : 03-3438-0466 FAX : 03-3431-1803